

四日市市総合計画・第1次推進計画

より一層効果的な推進に

市では、外部の目から政策の進み具合をチェックする機関として、四日市市政策評価検証委員会を設置しています。このほど、平成23年度分の総合計画・第1次推進計画事業に対する政策評価・検証の結果報告がまとめられました。報告をまとめるまでの委員会の取り組みと意見の概要について紹介します。

政策の評価・検証の流れ

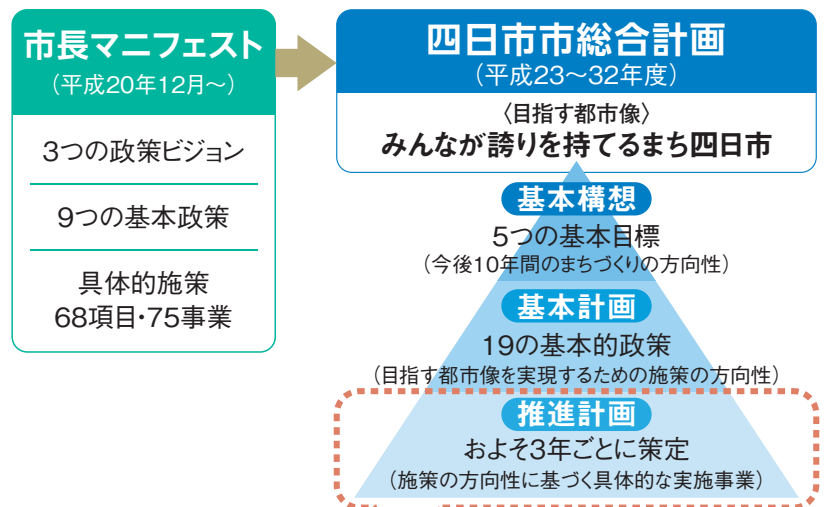
市長マニフェストと総合計画の関係

政策評価検証委員会は、田中市長のマニフェスト事業の評価・検証を行う外部委員会として、平成21年8月に設置されました。これまで、平成21、22年度の事業の評価・検証を行い、進捗^{しんちよく}について報告を行ってきました。

一方、市は、平成23年度から今後10年間のまちづくりの基本的な方向性を示す「四日市市総合計画」を策定し、平成23年4月から総合計画に基づく「第1次推進計画(平成23~25年度)」により事業推進を図っています。

総合計画はマニフェストを包含して策定されており、マニフェストで立ち上げられた事業をより推進させていく推進計画事業の

評価・検証を重点的に行うことがマニフェストの評価につながるため、同委員会では組織を改編した上で、推進計画の事業に関する評価・検証を行いました。

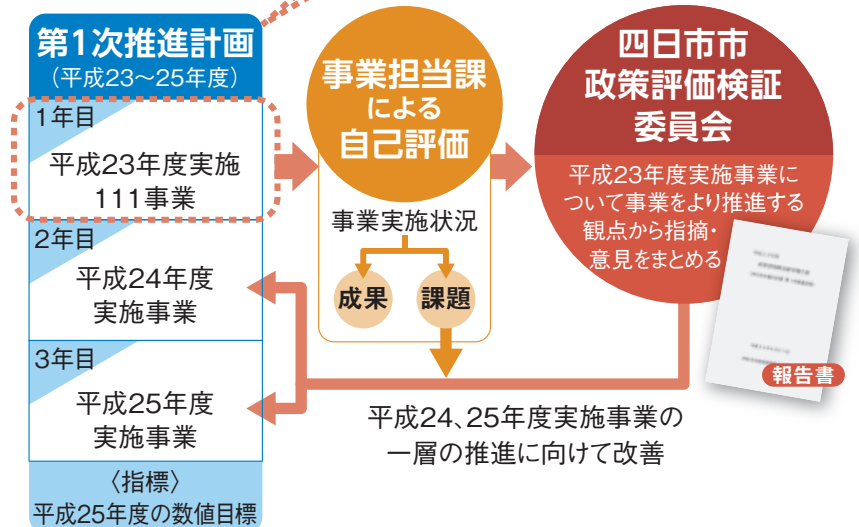


第1次推進計画・平成23年度実施事業の評価検証

第1次推進計画は3カ年を計画期間としており、平成23年度実施事業はその1年目の取り組みに当たります。

事業担当課では、平成23年度の実施状況を振り返り、「成果」と「課題」について自己評価を行いました。

委員会としては、事業担当課による課題認識の部分に注目し、3年後に目指す指標を達成できるよう、平成24、25年度の取り組みがより質的に向上し、事業が一層推進されるよう、指摘や意見を述べ、事業担当課は今後の事業改善を図ります。



向けて



岩崎委員長(左)から田中市長(右)へ報告書を提出

平成23年度実施事業について、政策評価検証委員会からの評価と意見

おおむね順調との評価をいただきましたが、一方で課題についての指摘もいただきました。その指摘事項の一部を紹介します。

- 市はさまざまな事業を行っているが、市民にとって、その全体像を知ることは難しい。事業の成果を市民に知ってもらおう努力をしないと、せつかくの事業実績が市民に伝わらない。



開催された政策評価検証委員会

- 事業を開始したり、モデル的に実施する際には、着手したことをもって事足りりとするのではなく、それが当初の狙いに即しているか、次年度以降の展開に資するだけの手応えがあったかで判断すべきである。
- 1年目の課題とされた事柄について、2年目・3年目の戦略で改善が図られるよう、戦略の見直しを行う必要がある。
- 総じて事業実施に関する自己評価が甘いと感じる。現状で良しとしてしまうのではなく、厳しく自己評価し、今後の推進につなげるべきである。
- 中長期的に進めている事業など、進めているという話だけで、実感が持てないことがある。何がどれだけ進んだか、市民に分かりやすく示す必要がある。



行政・市民が 一体となった事業の推進を

四日市市政策評価検証委員会
委員長 岩崎 恭典
(四日市大学総合政策学部教授)

平成23年度分の評価に当たっては、総合計画の策定作業に関わった皆さんにもご参加いただき、政策評価検証委員会を改組しました。総合計画・推進計画の進捗管理の観点から、検討を進め、111にも及ぶ事業について、各委員にご尽力いただき精査をいたしました。

その上で、事業を推進するためには、まずもって市民に対して、行政がどういう狙いで何を達成しよ

うとしているのか、分かりやすく示すことが重要であるという観点から、特に多くの意見が寄せられ、行政側の「自己評価」の在り方に再考を求める場面もありました。しかしながら、委員からの指摘はいずれも、第1次推進計画がより一層効果的に実施されるよう、背中を押すような気持ちでなされたものであり、事業推進に向けた思いについては、行政も委員も同じだと感じた次第です。

今回、当委員会として、行政に市民目線での分かりやすい事業説明を求めてまいりましたが、それを受け止める市民の皆さんにおかれましても、市政に関心を持ち、事業について理解を深めるとともに、機会をとらえて「協働」の場に参画していただきたいと思っております。

- 報告書の詳細については、市のホームページ(<http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/menu76083.html>)でもご覧いただけます